

(熊本県立水俣高等) 学校 平成30年度学校評価表 (定時制)

1 学校教育目標
「平成30年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」等を踏まえ、本校の校訓「自律・敬愛・創造」の具現化に努め、互いを認め、励まし、個性を高めあう教育を推進し、徳・知・体の調和のとれた全人教育の実践を目指すとともに、防災型コミュニティ・スクールをとおして防災教育の充実を図る。

2 本年度の重点目標
<p>本年度の指導の重点スローガン・・・「可能性の追求 ～Anything is possible～」</p> <p>(1) 教育活動全般をとおして他者を思いやり、秩序ある学校生活を営む態度を育成する。</p> <p>(2) 心身の健康を保持増進する力を段階的に高め、体育的活動をとおして、自らスポーツに親しみ、体力を高める態度を育成する。</p> <p>(3) 生徒一人一人の特性や学力にあった学習活動を展開し、教育機器等の効果的な利用を図り、自ら学ぼうとする意欲や態度を育てる。</p> <p>(4) キャリア教育の視点に立ち、検定等の受検を積極的に勧め、面談等の指導の工夫、充実により個々の能力・進路目標に応じたきめ細かな指導を行う。</p> <p>(5) 面談等を活用し生徒理解に努め、生徒一人一人の特性を早期に把握するとともに、働きながら学ぶ環境を整え、個々のニーズに応じた指導を計画的に行う。</p> <p>(6) 学校の教育活動や生活状況を保護者に周知するとともに、状況に応じて保護者等との連絡を適切に図り、課題解決に向けて組織的に予防的対応に努める。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目標管理による学校運営の推進	学校目標の理解と重点指導の徹底	すべての教職員が、教育目標を理解し、定時制の特色を生かした魅力ある教育活動を推進する。	職員自ら挨拶や整容に気を配り、生徒へ積極的に声かけをしながら教育に当たる。 教師の授業力を高め生徒のやる気を引き出す。	A	毎日の連絡会でさまざまな情報を共有し、必要に応じて適切な声かけができた。また、「分かる授業」を展開することができた。
	学び合い、高め合い、支え合う職員集団	危機感を持った、事業の工夫・改善	説明責任・情報公開を前提にして教育活動を再確認する意識を習慣付ける。	「生徒の思い」「保護者の思い」を把握する。 行事の実施要項や資料を再点検し、既存に囚われず、本校に必要な教育活動を実践する。 不祥事防止に全職員で取り組む。	A	保護者との連携を密にし、生徒の思いを大切にしながら教育活動を行った。特に商業科の課題研究では地域の企業等と連携し、商品開発や販売実習など充実した活動ができた。
	学校改革の推進	業務の効率化と職員の意識改革	業務見直しに関する検討会を年間2回以上実施し、課題の共有と業務の改善を図る。 超過勤務時間を、月平均20時間未満にする。	報告・連絡・相談の徹底と、気軽に相談できる環境づくりを推進し、職場の風通しを良くする。 職員の超過勤務時間の実態を分析し、業務改善に全職員で取り組む。	B	一つ一つの業務に関して全職員で検討し、共通理解を図った上で学校全体として取り組むことができた。出退勤の管理を含め、職員の健康管理については概ね達成できた。
	生徒理解の推進	生徒理解と課題・指導の在り方の共有化	各学期に1回以上、生徒理解のための研修会を実施し、情報を共有しながら、生徒一人一人に応じた的確な指導を実践する。	教務部、生徒指導部、保健部が立案し、全職員で連携し、課題解決に取り組む。 生徒の困り感を把握し、合理的な配慮を行うことで、生徒の可能性を広げる。	B	生徒一人一人が抱える課題を全職員で共有し、可能な限りの合理的配慮を行うことで、生徒の困り感が少しでも減少するよう取り組むことができた。
学力向上	授業力の向上	公開授業・研究授業・授業評価の実施	全職員が、それぞれ1回以上の研究授業を行う。また、ICTを積極的に活用し、生徒が主体的に学習をすすめる工夫を行う。	教務部が立案し、全教科で取り組み、保護者や近隣の中学校等へ公開実施の周知を行う。また他校の公開授業に積極的に参加するなど、教師の研修の機会を確保する。授業評価の結果を早期に分析し、授業改善に努める。	B	全職員が1回以上の研究授業を行い、授業力の向上を図った。公開授業週間について広報したが、参加者の増加はなかった。他校の公開授業や研究会へは積極的に参加することができた。

	基礎学力の向上	基礎国語・基礎数学・基礎英語など、学校設定科目の充実	各学校設定科目で中学校の学び直しを行い、基礎学力の向上を図る。	教務部が立案し、当該年次、当該教科で取り組む。教師の授業力を高め、生徒のやる気を引き出し、主体的な学習を促す。	B	各学校設定科目の中で、中学校等の学び直しを行った。キャリアアップ講座を実施し、基礎学力の向上を図った。
キャリア教育（進路指導）	個に応じた進路指導の推進	生徒個人の進路目標の明確化と卒業予定者の進路決定率や在校生の就労率の向上	卒業予定者の進路決定率をできるだけ100%に高める。在校生の就労率を60%に高める。商業関係検定受検を積極的に勧める。	卒業学年にあつては、各学期で進路面談を実施する。進路部と担任との連携を深める。商業科目を中心に検定前課外学習などを実施する。	B	就職希望者の進路が未決定であるが、継続雇用に向けて活動中である。例年に比べ在校生の就労率が35%と低めであった。商業関係検定の受験にも挑戦した。
	進路意識の高揚	インターンシップや進路関係行事の実施	未就労者対象のインターンシップの実施。講話等は各学期1回程度実施する。	進路部が立案し外部機関との連携を密にし、全職員で取り組む。	B	インターンシップは未実施だったが、その他の進路関係行事は実施できた。次年度も個別指導を中心に、各行事に取り組む。
生徒指導	社会性の向上	登下校時における交通ルール遵守等の規範意識の向上	自転車・原付・自動二輪・自家用車の運転に関して、交通ルール、交通道徳を守り、事故ゼロを目指す。	生徒会活動や学校行事（交通安全教室等）において、生徒指導部を中心に、生徒・職員全体で取り組む。	B	交通安全教室を自動車学校で実施し、HR等で交通安全についての指導を行い、生徒の規範意識を高めるようにした。
		言葉遣い、時間厳守等の基本的な生活習慣の確立	それぞれ異なる課題を持つ生徒に対し基本的な生活習慣の改善を目指す。	生徒理解研修を踏まえ、毎日の活動の中で職員間の共通理解を図り、生徒・職員全体で取り組む。	B	職員の指導で、生徒は全体的に落ち着いている。課題を抱えた生徒には更に改善を図る。
	健康教育の推進	禁煙指導・薬物乱用防止の徹底	喫煙者の増加防止と薬物使用の根絶を目指し、指導を行う。	喫煙の状況把握と健康に関わる講話を実施し、生徒指導部と保健部との連携により取り組む。	B	薬物乱用防止教室を実施し、生徒は喫煙の害と薬の正しい使い方を学んだ。
人権教育の推進	推進体制の確立と研修の充実	年間計画の作成と職員研修による人権意識の向上	特別活動（LHR）での研修会の実施と授業計画表を作成する。外部団体の研修に参加する。	人権・特別支援委員会が立案し、学校全体で取り組む。外部団体の研修については、全職員が年に一回は参加し復講することによって、職員の学びを深める。	B	外部団体の研修については、参加する職員の偏りを減らすことができた。復講をいただいたことにより、成果を共有できた。
	「命を大切にす る心」を育む指 導の推進	「命」や「生きること」の考察とおとした自己肯定感と他を思いやる心の育成	「命」の大切さの認識による自己肯定感の向上と、他者と良好な人間関係を構築させる。	授業や特別活動において、生徒が活躍したり、自分の居場所を感じることができるよう場面をつくるよう全職員で常に意識して取り組む。	B	特に、「総合的な学習の時間」や「特別活動」において、自律心・道徳観を培い、他者と協働する社会性を育成することができた。
	教科指導におけ る取り組みの推 進	「分かる授業」の工夫と改善	生徒の課題に応じた学習指導の工夫をする。	教務部と協力して、「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」を全教科・全職員で取り組む。	B	「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」に取り組み、生徒の自己肯定感を育むことができた。
いじめの防止等	いじめの未然防止と事態への対応	生徒指導部及び、いじめ防止対策委員会を中心とした取組	いじめ件数ゼロを目指して、職員全員で情報共有を図る。また、面談を充実させ、生徒が相談しやすい環境づくりに配慮する。より迅速な対応を心がける。	各学期においていじめアンケートを実施し、全職員でいじめを許さない学校づくりを実践するとともに、年間を通じていじめ防止への意識を高く持つ。「心のきずなを深める月間」の6月には、人権教育LHRを実施し、また「いじめ防止標語」を生徒たちに作成させ、いじめ防止の気持ちの涵養を図る。重大事態発生時には、いじめ防止基本方針及び策定マニュアルに基づいて全職員で迅速に対応する。	B	「いじめを許さない宣言文」を、全生徒の前で生徒会代表が読み上げ、「心のきずなを深める標語」を全生徒に作成させ、全生徒・全職員、いじめを許さない精神をある程度醸成することができた。
特別支援教育	生徒の教育的ニーズに対応した支援の推進	個々の生徒に応じた支援計画の実施と、適切な指導の充実	支援を要する生徒の理解を深め、個に応じた支援を推進する。生徒、保護者の教育的ニーズを理解し、合理的な配慮を行う。	生徒理解研修や日々の連絡会をとおして職員への啓発を行い、生徒の実態を把握する。スクールカウンセラーや専門機関と連携しながら支援の検討を行い実施する。	B	生徒理解研修や日々の連絡会をとおして、職員の共通理解を図ることができた。他校の特別支援担当者や児童発達支援センターの相談員の方々と連携を取り、生徒の支援に当たることができた。

環境教育	地域と連携した環境教育の推進	「環境都市みなまた」実現のための学校版環境ISOの取組	全日制と連携を図り、学校版環境ISO宣言項目を徹底した活動を行う。	宣言項目を基に生徒指導部を中心に生徒・職員全体で取り組む。ペットボトルキャップやコンタクトレンズケースの回収など、地域の活動に参加する。	B	生徒・職員で取り組むことが出来た。地域の活動にも全日制と協力して参加できた。しかし、ごみの分別が徹底されないことがあった。
	学習環境の整備と推進	学校生活を快適にするための環境づくり	教室や多目的室等の清掃活動を毎日実施する。環境美化意識強化週間を設け、意識向上と実践の定着を図る。	エコスクールチェックシートを活用し、環境美化に関する意識を向上させ、生徒・職員全体で取り組む。	B	毎日の清掃活動と月末のチェックシートの記入は、習慣化され全員で取り組むことが出来た。しかし、机周りやロッカーの整理整頓には個人差があり指導の工夫が必要である。
地域連携(コミュニティ・スクール等)	家庭・地域への定時制教育の周知	防災型コミュニティ・スクールとしての防災システムの構築	熊本地震を生かした防災教育の充実と防災グッズの活用。	地域と連携した防災訓練を実施するなど、地域と一体となった災害時の連携体制や防災システムをさらに構築する。また、生徒が地域の一員として行動する意識を持てるよう取り組む。	B	本年度は水俣市合同防災訓練が中止になったため大きな活動はできなかったが、定時制での防災訓練では避難所運営についてグループ活動ができた。
		学校行事を通しての定時制教育活動の広報と周知	学校行事とおして、定時制教育の地域への発信を図る。HPを最新情報にするため、行事後速やかに記事を作成し更新を行う。	生徒指導部・教務部と連携して、定通総体・定通文化大会・文化祭等に取り組む。副校長・教頭・教務部・総務部を中心に取り組む。	B	HPは役割を分担して行事ごとに更新できた。また文化祭等においても多くの方に来場頂き、商業科のアピールの成果が出てきていると感じる。
		保護者会の開催と学校行事等への保護者参加の推進	学校での様子を保護者に伝えるため「定時制だより」を発行し、月末統計に同封する。また、各学期の終業式への参加案内を行う。	総務部で役割分担を行い、生徒の様子が見える内容での作成に取り組む。LHRへの保護者の参加を促し、保護者相互の交流の場を企画し実施する。	B	総務部で役割分担を行い協力して、毎月欠かさず定時制だよりを発行できた。保護者の終業式への参加は少なく、LHRへの参加を促すことはできなかった。

4 学校関係者評価

- 国公立大学への合格者が増加するよう期待している。地域はそこにも注目している。
- 企業や社会から求められる人材育成に、更に取り組んでほしい。
- 子どもたちにメリットがある活動を期待している。
- 学校評価アンケートの結果で、ほとんどの保護者がAかBと評価しておられ、学校と保護者間で信頼関係ができているのが見て取れる。

5 総合評価

- (1) 学校教育目標について
本校の校訓「自律・敬愛・創造」を具現化するため、一人一人の生徒が自己肯定感を高め、自発的、積極的に活動ができるよう教育活動に工夫した。特に定時制文化祭や地域の催しにおいて、これまでに協力企業と連携し開発してきた商品を販売するなど、地域の方々との交流の場を多く設定し活動することで、生徒たちは達成感を得ることができた。
- (2) 本年度の重点目標について
今年度も継続して、生徒の学習習慣や生活習慣の定着と、自立心の育成に力を注いだ。SGHとしての全日制の活動に関連できるよう環境美化活動や異文化交流学習等にも取り組んだ。また学習習慣が身につかない生徒へは、学び直しを徹底し、「分かる授業」を実践することで、生徒が分かる喜びを感じられるよう、基礎学力の向上に努めた。
- (3) 自己評価総括表について
学力向上については、国語、数学、英語を中心に中学校の学び直しを行い、また、キャリアアップ講座等で基礎学力の向上を図った。進路指導では、外部機関と連携したキャリア教育に取り組んだ。インターンシップに参加しない生徒へは、校内において進路学習を行い、勤労観・職業観が高まるような指導を行った。生徒指導では、職員からの的確な声かけや、保護者との連携により、問題行動やいじめのない安全で安心して学校生活を送ることのできる場所としての学校を確立することができた。特別支援教育については、特別支援教育コーディネーターを中心に、生徒一人一人の状況を把握し、生徒を理解することにより、生徒が必要とする支援を行うことができた。

6 次年度への課題・改善方策

- 商業科の課題研究で行う商品開発を充実させ、地域の催し等にも積極的に参加することにより、定時制教育を地域へ発信するとともに、入学志願者を増加させる。
- 地域の小中学校の公開授業に参加し、自らの授業力の向上のためのヒントを得られるよう促した。今後も、生徒の学力を保證することができるよう、ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりに取り組む。
- 中学校との連携により、一人一人の生徒が必要とする支援が適切に行えるよう、特別支援教育コーディネーターを中心に、生徒理解に更に努める。
- 学校改革と働き方改革について、今後も継続的に改善と充実を図り、生徒と向き合う時間の確保や定時制教育の質の向上につなげる。
- 早期に進路指導部と教務部で連携した取組を行うことで、生徒の進路意識を高め、生徒の進路希望達成につなげる。
- 防災型コミュニティ・スクールの取組については、定時制の生徒への防災教育を充実させ、地域との合同防災訓練への積極的な参加を促す。